



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2011.4

No. 324

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



# 地域で鳥見の普及活動

山部直喜(三郷市)

「連絡帳」欄には、各季節、会員による野鳥を通しての普及活動が報告されています。地域の公民館や学校などから依頼を受けて実施される場合が多いようです。しかし、実際にその依頼を受けるのは年度がわりの4月です。この時期、公民館や学校等では新しい企画を立てているからです。また、地域で個人的に普及活動を行っている会員もいます。私もその一人です。

今回は、私が行ってきた特に初心者むけの地域観察会を紹介します。普及活動の参考にしてください。

## ● ころがけていること

私が行っている観察会は、「私個人が、基本的に第2日曜日に野鳥を見に行きます。ご一緒にどうぞ」というスタンスです。始めた目的は、この地域に残っている自然のすばらしさ、野鳥の命の営みを少しでも多くの人に伝えたいと思ったからです。だから、観察会等では自分のことを地域の自然「案内人」と紹介しています。そして、観察会では自分が一番楽しんでいます。

この「自分が楽しむ」ことは不思議と参加者に伝わり、感染した人はリピーターになります。私が野鳥を見始めたころ、探鳥会の殆ど全てのリーダーを担当していたNさんやEさんは、実に楽しそうに野鳥を見せてくれました。その姿を見た自分は、「ああ、探鳥会って楽しいものなんだ」「また来よう」と。今はその感染菌を地域にばらまいています。

## ● 予習

自分が楽しむためには観察地の予習が大事です。月に一度はその地に足を運びます。冬の観察会だったとしても「夏には、あの枯れ木のとっぺんでカッコウが鳴いていました」等の話は観察会に厚みを持たせます。図書館でその地の歴史や最寄りの病院の診療時間も調べておきます。

下見は1週間前には観察時間に合わせて行います。太陽を背に眺めのよい所に腰を下ろします。15分ほどのんびり眺めている

と野鳥の動きを感じてきて、観察コースがイメージされます。

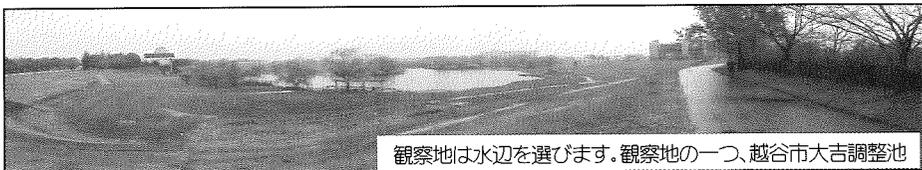
コース取りの原則は、なるべく順光、距離は2km以内、時間は2時間以内、スタートとゴールは同じ、山場は最後に持つてくる、鳥は普通種中心、です。当然、危険箇所や便所にも留意します。そして、当会が毎年実施している「リーダー研修会」の内容を思い浮かべながら実際に歩き、最初のイメージを修正します。

## ● 用意

参加者は地元の初心者が殆どです。「また来よう」と思われるような工夫に努めます。

右ページ上の表は、一昨年11月の第1回野鳥観察会ビンゴゲームです。1列ができれば10点、従って縦が全部ができれば40点。同様に横は40点。斜めの2列で20点、計100点。100点は老若男女皆大好き。この時は、鳥の名前は殆ど必要ありませんでしたが、参加した皆さんは夢中で観察していました。

次の12月からは、各季節の見所(右ページ中)からテーマを決め、ビンゴゲームは野鳥以外のものも入れて9マスにしました。テーマが確認できれば20点、ビンゴゲームが80点、合わせて100点。テーマやビンゴゲームは100点が取れるような内容にしています。リスト(右ページ下)も用意します。約60種ほどの普通種を経験から選び、漢字を添えて作っています。



観察地は水辺を選びます。観察地の一つ、越谷市大吉調整地

● さて、本番

当日は天気予報と当番医を確認します。小雨決行です。スタートの地点で当日の資料を説明し、10分ほど景観を楽しみ、鳥の動きを共有してからスタートします。

野鳥の名の即答は避けています。それよりも、地域や生活と結びつけたり、擬人化したりして話しています。例えば、

- ・ カスリーン台風の時はこの辺は水が出たと聞きました。
- ・ あのカラスはずいぶん礼儀正しいですね。お辞儀しながら鳴いてます（ハシボソガラス）。
- ・ あれあれ、あのカモの嘴は دونالدダック に似ていますよ（ハシビロガモ）。
- ・ あのカワセミはオシャレですね。紅をさしています（♂♀の区別を説明）。
- ・ あのホオジロ、まだ彼女がいないんですね。懸命にアピールしています。
- ・ ヒヨドリが、ツバキの花粉でお化粧しています。
- ・ ♂ですが濃いアイシャドウをしていますよ（ヒドリガモ）。などなど

本番はハブニング優先です。ハヤブサが出たときなどは私がパニックでした。

● 復習

「今日のワンポイント」としてまとめ、次回の資料の片隅に載せます。例えば、

- ・ 川は、上流を背に右が右岸、左が左岸。
- ・ カワセミ♀は嘴に紅をさしています。
- ・ カモたちが一斉に飛び立ったら要注意。タカの仲間が来ているかも。
- ・ 「こんなところに」と思わないで身近なところもじっくり観察。
- ・ 今年初めての冬鳥を見たら記録(初認)しましょう。モズの高鳴きも年度毎に比べると楽しいものです。などなど

● こんなメールが届きました

「昨日、観察会のお手伝いをしてきました。まだまだ経験が浅いので、経験者の側について歩くような状態でしたが、教えていただいたことをひと言加えたりしましたら“ああ、そうなの～”って感心されて、うれしかったです!!」

うれしかったのは私のほうでした。

巢を見つけた	糞を見つけた	直線に飛んだ	波形に飛んだ
木に止まる	草の中にいた	水に浮かぶ	地面にいた
潜った	水浴び	ウォーキング	ホッピング
カラス ガーガー	カラス カーカー	スズメ 10以上	ハト 5以上

各季節の見所	
春(3, 4, 5月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初認(ヒバリ)の囀り、ウグイスの初音、ツバメの飛来)</li> <li>・ サギのコロニーの形成、婚姻色</li> </ul>
夏(6月)	サギのコロニーを観察
※7, 8, 9月	は暑いので休みです。
秋(10, 11月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カモ(初認、エクリプス)</li> </ul>
冬(12, 1, 2月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カモ類の観察</li> <li>・ バン、オオバン、カワセミ</li> </ul>

今日の出席簿

No.	和名	漢字	出欠	No.	和名	漢字	出欠
1	カイヅブリ	唐(にお)		36	キジハト	雉鳩	
2	カワフ	川鴨		37	カワセミ	翡翠	
3	ヨシゴイ	葦五位		38	コゲラ	小啄木鳥	
4	ゴイサギ	五位鷺		39	ヒバリ	雲雀	
5	アマサギ	鮎鷺		40	ツバメ	燕	
6	ダイサギ	大鷺		41	ハクセキレイ	白鶺鴒	
7	チュウサギ	中鷺		42	セクロセキレイ	袴黒鶺鴒	
8	コサギ	小鷺		43	タヒバリ	田器雀	
9	アオサギ	蒼鷺		44	ヒヨドリ	鶉	
10	マガモ	真鴨		45	モズ	鶇・百舌鳥	
11	カルガモ	野鴨		46	ジョウビタキ	樹鵲	
12	コガモ	小鴨		47	ツグミ	鶺鴒	
13	ホシハジロ	星斑白		48	ウグイス	鶇	
14	ヒドリガモ	綠鴨		49	オオヨシギ	大雁切	
15	オナガガモ	尾長鴨		50	セッカ	雪加	
16	ハシビロガモ	嘴白鴨		51	シジョウカラ	四十雀	
17	キンクロハジロ	金黒斑白		52	メジロ	目白	
18	ホオジロガモ	鵞白鴨		53	カシラダカ	頭高	
19	チョウゲンボウ	長元坊		54	アオジ	青鷺	
20	ハヤブサ	隼		55	オオジュリン	大寿林	
21	キジ	雉		56	カワラヒワ	河原鶉	
22	バン	鵞		57	シメ	鶉	
23	オオバン	大鵞		58	スズメ	雀	
24	コチドリ	小千鳥		59	ムクドリ	椋鳥	
25	イカルチドリ	鵲千鳥		60	オナガ	尾長	
26	クサシギ	草鷺		61	ハシボソガラス	嘴細鳥	
27	タカブシギ	鷹鷺		62	ハシブトガラス	嘴太鳥	
28	キアシシギ	黄脚鷺		63			
29	イソシギ	磯鷺		64			
30	タシギ	田鷺		65			
31	コリカモメ	百合鴨					
32	セグロカモメ	袴黒鴨		*	ドバト	土鳩・堂鳩	
33	ウミズコ	海鷺		*	ワカゲホンセイインコ	鴉振本海鷺	
34	コアジサシ	小磯刺					
35	シラコバト	白子鳩					

# 2010 年秋 埼玉県タカの渡り調査

日本野鳥の会埼玉研究部

本調査は（表1）の通り実施され、（表2）の結果を得ました。多くの方々のご協力に感謝申し上げます（小荷田行男）。

表1 調査状況

調査地	標高	調査者	調査日時	天候
中間平(寄居町)	350m	後藤康夫ほか	9月26日7:30～13:00	晴
天覧山(飯能市)	195m	佐久間博文ほか53名	9月26日6:50～14:30	晴

表2 タカの渡り種別観察数

	サシバ	ハチクマ	オオタカ	ハイタカ	ツミ	ノスリ	トビ	ミサゴ	チゴハヤブサ	チョウゲンボウ	合計
中間平	53	7	0	2	3	12	26	2	1	0	106
天覧山	219	0	(3)	0	(1)	(1)	(19)	0	0	(1)	221 (25)

( )内は非渡りの数

## 記録委員会最新情報



### ●サバクヒタキ

分類 スズメ目ツグミ科サバクヒタキ属

英名 Desert Wheatear

学名 *Oenanthe deserti*

2011年2月12日深谷市東方で鶴飼喜雄、倉崎哲郎両会員がサバクヒタキ1羽を観察し、鶴飼会員が同日(上写真)と翌13日に撮影しました。

本会の記録によれば、本種は1980年11月15日から12月1日まで戸田市新曽荒川河川敷内の工事現場で観察写真撮影されたのが過去県内唯一の確認記録(本誌1985年2月第9号)であり、今回は県内2例目です。

## 筑波山へ行って来ました

長嶋宏之(蓮田市)

3月3日、筑波山にハギマシコ&カヤクグリを見に行ってきました。

残雪にハギマシコの赤はよく似合い、とても綺麗ですっかり巻き込まれてしまいました。カヤクグリも目先5m位で採餌姿を楽しませてくれました。

また、この日はよく晴れていて、都心のスカイツリーも幽かに見え、関東平野の広さを改めて実感しました。





## 野鳥情報

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇12月15日、

マヒワがハンノキにいた。アリスイ、エナガ、猛禽の声。12月24日、アカゲラ♂1羽、マヒワ、キセキレイ、カワセミ♂、コブハクチョウ3羽、カケス、イカルチドリ、イソシギなど。12月31日、キセキレイ、エナガ、ヤマガラ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、カシラダカなど。1月5日、アカハラ、アリスイ。1月7日、アカゲラ♂♀両方を見る。つがいなのだろうか。たまたま一緒になっただけ？1月10日、アカゲラ♂♀、マヒワなど。1月14日、マヒワ15羽の群れ（鈴木紀雄）。◇1月12日、トラツグミ1羽、道路に出てきていた。1月18日、歩き始めて直ぐにトラツグミ2羽が迎えてくれた。アカハラ、ルリビタキもようやく姿を見せ、マヒワも数羽。その他アカゲラ、シメ、エナガ、シロハラ、コジュケイなど。昆虫観察で来た方に越冬中のウラギンシジミを見せてもらった（菊川和男）。◇1月15日、マヒワ約20羽、カワラヒワの群れと一緒に行動。鉄塔の上にハヤブサ若鳥1羽、じっととまっていた。近くの鉄塔にオオタカもいたそうだが、カラスに追われて飛び立ったとのこと。キセキレイ1羽、ヤマガラ2羽、シロハラ、シメ、トラツグミ2～3羽、アカハラ、カケス、元荒川でハシビロガモ♂1羽など（藤原寛治）。

**蓮田市黒浜沼** ◇1月4日午前11時30分～午後1時、東埼玉病院でコミミズク、アカゲラ、エナガ、シロハラ、アカハラ、カシラダカ、シメなど。午後2時、上沼でオオジュリン、オオバンなど（本多己秀他3名）。◇1月13日、東埼玉病院内でカシラダカ、ヒガラなど（鈴木紀雄）。◇1月19日午前10時頃、東埼玉病院でマヒワ6羽、シロハラ、カシラダカ、カケスなど（本多己秀・久文子）。

**桶川市のホンダエアポート** ◇12月27日、タゲリ約20羽をここで今季初めて見た。12月29日にも肉眼で確認できる範囲に8羽。こ

れから2月位まで姿を見られるはずだ（森本國夫）。

**羽生市羽生水郷公園** ◇12月28日、ムクドリ100羽土がナンキンハゼの実を美味しくそうに食べていた。コガモ10羽が羽音を響かせて頭上を通過。アオジが目の高さの枝でハイ・ポーズ。ノスリがカラスにモビングされて、ハイタカ？がそれに続いた。草原をチュウヒがV字飛行の後、遠方の枝にとまった。その他ヨシガモ♂4羽♀4羽、オカヨシガモ3羽、ホオジロ♂2羽♀3羽、オオジュリン、カルガモ、コガモ、ツグミ多数。帰りにイタチが見送ってくれた（長嶋宏之）。

**蓮田市蓮田** ◇12月31日正午、自宅庭の落ち葉だまりにルリビタキ♂1羽♀1羽（本多己秀・久文子）。◇1月6日午前9時、オオタカ1羽、青空を舞う。1月11日午前7時30分、ルリビタキ、カシラダカ、コゲラ、ウグイス、シジュウカラなど。富士山のきれいに見える冬の庭。ルリビタキが来ると何かうれしい。1月15日午前7時、自宅庭でヤマガラ5羽、シメ、シロハラ、アオジ、ルリビタキ♀、ジョウビタキ、ウグイス、メジロ5～6羽。オオタカ2羽、上空旋回など（本多己秀）。

**蓮田市根ヶ谷戸公園** ◇1月1日午前7時、シロハラが低木にとまっていた。あちこちにツグミ、コゲラ。1月16日午前9時、シメ10羽の群れ、ツグミ、ウグイス、コゲラなど。1月18日午前7時、シラコバト3羽、シメ5羽など（本多己秀）。

**久喜市早川** ◇1月1日午前11時頃、ハヤブサ1羽、上空通過。ミヤマガラス約20羽、電線にとまっていた（本多己秀）。

**北本市北本自然観察公園** ◇1月2日、アリスイ1羽（阿部義裕）◇1月3日、クイナ、ノスリ、アカハラ、シロハラ、シメ、カワセミなど（本多己秀・久文子）。

**蓮田市西城沼公園周辺** ◇1月2日、ナンキンハゼの実をムクドリ7羽とスズメ1羽が食べていた。1月9日、西沼にキンクロハジロ♂1羽♀1羽。ここでは初めてだ（長嶋宏之）。

**さいたま市見沼区猿花キャンプ場** ◇1月5日、初めて行って見たが、ヒヨドリとハシブトガラスばかり。つまらないから帰ろうとしたところ、頭上をツミが1羽（小林みどり）。

**さいたま市岩槻区釣上** ◇1月7日、田んぼを耕起するトラクターの周りにケリ3羽。ツグミ、ハクセキレイ、タヒバリなど（鈴木紀雄）。

**深谷市本田(旧川本町)** ◇1月9日昼過ぎ、白鳥飛来地の対岸にツメナガセキレイ（亜種キタツメナガセキレイ）1羽、この冬も確認、やったね！ 越冬コチドリ2羽、オジロトウネン4羽も珍しいかも。コハクチョウ群中に亜種アメリカコハクチョウ1羽。その他、イカルチドリ、クサシギ、イソシギ、カイツブリ群れ、コガモ♀♀、ホオジロガモ群れ、ミコアイサ♀♀、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリなど（榎本秀和）。◇1月23日、ツメナガセキレイ（亜種キタツメナガセキレイ）1羽。ここでは2007年以降4例目。オジロトウネン9羽。シノリガモ♀1羽の情報を頂き、観察。足に黄色味がある個体（鈴木敬）。

**坂戸市浅羽ビオトープ** ◇1月11日午前9時50分、エノキの実をついばんでいるイカル3羽。ビオトープ横を流れる高麗川中里堰でイカルチドリ5羽、セグロセキレイ3羽、ハクセキレイ2羽、タヒバリ1羽（増尾隆）。

**さいたま市桜区秋ヶ瀬公園** ◇1月12日、タグリ6羽飛翔、グラウンド上でも2羽。ヒメアマツバメ2羽飛ぶ。ネズミモチの実にツグミ、シロハラ、ヒヨドリ（鈴木紀雄）。

**川越市寺尾調節池** ◇1月12日、オジロビタキ1羽（中間一郎・清美）。

**さいたま市緑区大門** ◇1月13日、遊水池でオオタカ成鳥♀1羽が杭にとまっていた。コチドリ4羽など（鈴木紀雄）。

**久喜市菖蒲町上大崎** ◇1月13日、国道122号線を羽生（騎西）方面から南下してきて圏央道の「白岡菖蒲IC（建設中）」の近くで、カラスが多くいたので車を止めて双眼鏡で覗いたところ、コクマルガラスを発見。ミヤマガラスやハシボソガラス等200

羽以上が群れていて、その中にコクマルガラスもおりました。とても、警戒心が強く近寄れず、かなり遠くからの観察でした（菊川和男）。

**越谷市恩間新田/春日部市増田新田** ◇1月14日午後12時10分頃、両市境界に近い安之堀川に架かる谷中橋の北西上空に、飼鳩の群れに接近するように飛来したハイタカと思われる1羽。青空をバックに旋回上昇し、西へ飛去した。飛び方はひらひらした感じで一見、遠目にはチョウゲンボウに思えたが、自分の上空に来たとき、翼下面は幅広く白っぽく見え、翼端は開き、尾は割と細長く下面には3ないし4つ程のバンドが鮮明だった（石川敏男）。

**春日部市増田新田** ◇1月16日、昨夜半の粉雪が朝方まで残り、日が高くなるにつれ、解けてしまい、北西の風が強く吹き、青空に時雨雲が散在する中、午後12時15分頃、自宅上空を北東から南西へ風に煽られながらタグリ1羽が通過した（石川敏男）。

**久喜市久喜菖蒲公園** ◇1月16日、ヨシガモ♂3羽♀1羽、ミコアイサ♀1羽、カンムリカイツブリ2羽、カワセミ2羽、ビンズイ2羽、シロハラ2羽、ここでは久しぶりにコサギ、ダイサギ、アオサギが揃っていた。何処から逃げたのかコブハクチョウ1羽。その他ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロなど多数（長嶋宏之）。

**さいたま市見沼区深作遊水池周辺** ◇1月17日、ミヤマガラス約100羽。その他オオタカが上空で舞い、オオバン、マガモ、コガモ、ハシビロガモ、オカヨシガモ、タヒバリ、アカハラなど（菊川和男）。

**さいたま市見沼区膝子** ◇1月18日、高空をぐるぐる回るミヤマガラス50羽の群れ。下ではハイタカがアクロバティックな飛行で小鳥を襲っていたが失敗。やがてこのハイタカにミヤマガラスのモビングが始まった（鈴木紀雄）。

#### 表紙の写真

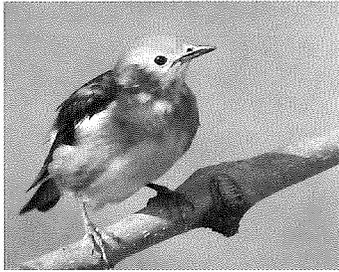
#### スズメ目メジロ科メジロ属メジロ

桜の木にとまるメジロをデジスコで撮りましたが、素早い動きに悪戦苦闘しました。

小林ますみ(所沢市)



## 行事案内



コムクドリ(寺添捨男)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：4月2日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。  
または午前8時30分、中央エントランス  
駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:36  
→栗橋7:56→柳生8:06着。またはJR宇  
都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で、東武  
日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、四分一、  
中里、茂木、植平、山田(東)、進士、野  
口(修)、佐藤、佐野

見どころ：アシ焼きの遊水地に、まだ居残  
り組のカモたちがいます。昨年はシマア  
ジ、今年の見納めは？

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月3日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口「住まいの情報  
館」前から、北里メディカルセンター  
病院行きバス8:31発で「自然観察公園  
前」下車。

担当：吉原、浅見、岡安、大坂、内藤、立  
岩、永野(安)、山野、長谷川、吉原(早)、  
相原(修)、相原(友)

見どころ：お花見客で賑わう石戸宿。エド  
ヒガンザクラや蒲桜を見ながら、赤い鳥、  
青い鳥もしっかりと探しましょう。

### さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：4月3日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家  
園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東  
川口駅北口行き8:37発で、「念仏橋」下  
車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、若林、新井(勇)、  
赤堀、須崎、藤田(敏)、野口(修)、大井  
見どころ：サクラをはじめとする多くの花  
が咲く中、夏鳥たちとの出会いが楽しみ  
です。花粉対策もお忘れなく。

### さいたま市・秋ヶ瀬公園自然観察会

期日：4月9日(土)

集合：午前9時、ピクニックの森駐車場。

交通：京浜東北線浦和駅西口から、大久保  
浄水場行きバス8:20発、または東武東上  
線志木駅東口から、与野駅西口行きバス  
8:25発、「下大久保」下車、徒歩約8分。

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)

見どころ：今回はマイ・フィールドの記録  
法、まとめ方、発表法を勉強します。あ  
なたの埋もれた鳥見データをまとめ、ま  
ずは『しらこぼと』に発表しませんか！

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居  
8:49発に乗車。

担当：中里、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、

藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、  
鶴飼、岡田

見どころ：土手のサクラと菜の花で春一色  
の大麻生。小鳥たちは賑やかにさえずり  
を聴かせてくれています。

### 所沢市・狭山湖探鳥会

期日：4月10日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場  
前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、  
持丸、小林(ま)、水谷

見どころ：菩提樹池を経由する長いコース  
を歩きます。早春の林で先陣の夏鳥を探  
し、湖畔で夏羽のカムリカツブリを見  
送ります。

### 『しらこぼと』袋づめの会

日時：4月16日(土) 午後3時～4時ころ  
会場：会事務局 108号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅  
東口、集合後バスで現地へ。または午前  
9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、新部、渡辺、若林、小  
菅、赤堀、増田、宇野澤、須崎、船木、  
畠山、柴野

見どころ：さいたま市の「見沼田圃基本計  
画」が策定されました。鳥だけでなく、  
たんぼの変化も楽しみたいものです。春  
の三室へどうぞ。

### 東松山市・物見山探鳥会

期日：4月23日(土)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を  
越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口から、川越観  
光バス鳩山ニュータウン行き 8:53、9:04  
発で「大東文化大学前」下車、バス進行  
方向へ徒歩約5分。

担当：中村(豊)、藤掛、岡安、志村、増尾、  
高橋(優)、千島

見どころ：里山の雑木林は若葉の季節、森

林浴を楽しみながらカラ類、エナガなど  
と旅の途中の鳥たちも探しましょう。

### 春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月24日(日)

集合：午前9時15分、アスレチック公園前  
駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス  
③番から、国民年金春日部エミナース行  
き 8:53 発で「共栄大学・短大前」下車。西  
へ徒歩約7分。

担当：石川、吉安、橋口、新井(良)、吉岡(明)、  
進士、野村(弘)、野村(修)、佐藤

見どころ：里山風景の残る内牧、新緑の屋  
敷林、雑木林、田んぼの中の道を歩きま  
す。

### さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月24日(日)

集合：午前9時10分、桜区役所バス停付近。

交通：京浜東北線浦和駅西口⑤番乗り場か  
ら、大久保浄水場行きバス 8:34 発で「桜  
区役所」下車。

担当：倉林、海老原、新部、赤堀、増田、  
船木、金子

見どころ：鴨川では水辺の鳥、猛禽類、田  
んぼではサギたちを探しましょう。公園  
ではオオルリ、キビタキに会えるかな。

### シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日(金・祝)

春と秋の2回、当会独自にシギ・チドリ  
類の調査を行っています。会員のご参加  
ご協力をお願いいたします。

◆大久保農耕地(さいたま市)

集合：午前9時30分、大久保浄水場の北西  
角近くの土手の上、運動公園入り口。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は  
不要。雨天でも行います。シギ・チドリ  
類が大変少ないこともあります。

### 東京都・三宅島探鳥会(要予約)

期日：4月29日(金)夜行船中泊～5月1  
日(日)

詳細は3月号をご覧ください。

## 栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：5月15日（日）と22日（日）  
集合時間：両日とも午前6時45分。  
集合場所：15日＝北朝霞駅前ロータリー交番前 22日＝大宮駅西口ソニック前広場。  
交通：往復とも貸し切りバスを利  
帰着：当日午後8時30分ころを予定。  
費用：6,000円の予定（バス代、高速料、保険料など）。過不足の場合は当日精算。  
定員：25名（先着順、埼玉会員優先）、最少催行人員は20名。  
申込み：往復はがきに参加日（必ず記入）、住所、氏名、年齢（保険加入で必要）、電話番号を明記して、入山博  
まで。4月1日  
消印からの有効受付とします。

担当：15日＝入山、持丸、星、藤澤、石川  
22日＝入山、玉井、浅見、佐野、田邊  
見どころ：湯ノ湖から、湯川沿いを戦場ヶ原から光徳牧場まで大自然を満喫しながら約8km歩きます。

## 長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：5月28日（土）～5月29日（日）  
集合：28日午前9時00分、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。  
交通：長野新幹線「あさま503号」（東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:50→長野8:43着）、または「あさま505号」（東京7:24→大宮7:48→長野8:49着）。  
費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。  
定員：30名（埼玉会員優先、先着順）。  
申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充  
まで。4月1日消印から有効受付とします。

担当：菱沼（一）、藤掛、中里、橋口  
見どころ：このところ赤、青、黄と信号機トリオが見られます。月末なので、ミズバショウは見られないと思いますが、新緑のまぶしい季節となります。  
ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室

の用意は出来ません。

## 2010年度埼玉鳥見ランキング結果

### 普及部

恒例となりました埼玉県内鳥見ランキング、2010年の結果を発表いたします。+  
観察鳥種数部門は昨年に引き続き船木数樹さんがチャンピオンに輝きました。記録も昨年の167種を4種上回るすばらしい記録です。同数2位に並んだ内田さん、野口さんも133種と堂々の記録でした。今回、亜種の記録もありましたが、当会の野鳥チェックリストを基に鳥種確認をしておりますので、亜種はカウントしませんでした。コブハクチョウについてもリストにはありませんので入れませんでした。  
探鳥会参加ランキングでも、船木数樹さんが58回の参加で1位となりました。

### 2010年観察鳥種数ランキング

順位	鳥種数	氏名	住所
1	171	船木 数樹	さいたま市
2	133	内田 克二	さいたま市
2	133	野口 修	川口市
4	129	佐藤 宏	越谷市
5	115	矢沢 義雄	久喜市
6	112	石塚 敬二郎	さいたま市
7	111	吉原 早苗	北本市
8	107	石塚 奏	さいたま市
9	98	田邊八州雄	越谷市
10	95	榎本 秀和	鴻巣市
11	81	浅見 徹	さいたま市

### 2010年探鳥会参加ランキング

順位	参加回数	氏名	住所
1	58	船木 数樹	さいたま市
2	38	内田 克二	さいたま市
2	38	吉原 早苗	北本市
4	28	野口 修	川口市
5	25	武井 咲嗣	さいたま市
6	24	矢沢 義雄	久喜市
7	23	石塚 奏	さいたま市
8	22	石塚 敬二郎	さいたま市
9	21	佐藤 宏	越谷市
10	14	浅見 徹	さいたま市



## 行事報告

12月12日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加：60名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハイタカ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外：コブハクチョウ) 出発早々キセキレイをじっくりと見ることができた。しかし、その後はカワラヒワが目立つ程度で苦戦する。水管橋手前の元荒川でもカモはゼロで、イカルチドリとイソシギのみ。それでも帰途では数羽のエナガをシジュウカラ、メジロ、コゲラの混群のなかで観察でき、モズやツグミ、ヒドリガモなども見ることができた。残念なことは一足遅くてアカゲラを見られなかったこと。珍しいことはスズメとムクドリが出現しなかったこと。天候に恵まれ、年末の気忙しさを忘れてのんびりお散歩気分の探鳥会であった。(長野誠治)

12月15日(水) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：40名 天気：晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ ミコアイサ トビ ノスリ チュウヒ ハヤブサ コチョウゲンボウ チョウゲンボウ オオバン ユリカモメ セグロカモメ キジバト アカゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) (番外：ドバト) 下宮橋を渡り谷中湖を覗くとカモ達の数が少なくて遠いと感じたが、トモエガモを加えて10種見つかってまずまずであった。チュウヒも浮島の上などを何度も

飛んでくれ、ノスリは枝に止まったりしてさらに大サービスだった。驚いたことに、東谷中橋付近で瞬間ではあったがコチョウゲンボウが目の前を横切った。谷中村史跡ゾーンへの途中ではベニマシコが何度も現れて、最後にはアキニレの枝にいる姿をみんなで見て終了した。(玉井正晴)

12月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：9名

新井浩、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、武井晁嗣、松村禎夫

12月18日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：56名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オカヨシガモ ハシビロガモ ノスリ コジュケイ オオバン キジバト アオゲラ コゲラ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) この冬もカモが大変に少なく、また折角来ても定着せず、じきに居なくなってしまふ。他の冬鳥たちも到着が遅れ気味のようだ。そんな不安を抱いてのスタートとなった。朝はだいぶ冷え込んだらしく、ふれあい広場の芝生には数センチの霜柱が立っていた。その広場でようやくジョウビタキを見つけた。それに続く遊歩道でカラの混群に出会った。シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、コゲラに混じってヒガラとキクイタダキの姿。疎林地帯ではどうしたことかビンズイもアオジも姿を見せず。山田大沼に向かう。わずかに残ったマガモ、コガモの中にハシビロガモ、オカヨシガモ、そしてトモエガモが見られたのは幸運だった。いつもより少し足を延ばして、かえで見本園まで行ってようやく1羽のビンズイを見つけ、鳥合わせにした。(中村豊己)

12月19日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加：37名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ バン キジバト カワセミ

コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ  
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ  
ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ  
アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ  
ムクドリ カケス ミヤマガラス ハシボソガラ  
ス ハシブトガラス (36種) (番外:ドバト) 前日  
の強風が嘘のように無くなり穏やかな陽気の中を  
スタート。前半は予想通りなかなか鳥が出ず、先  
頭を歩くリーダーのN氏も「ここにはハクセキレ  
イがいるはずです。」とベテランらしい会話で参加  
者の笑いを誘う。しかし途中からはチョウゲンボ  
ウ・オオタカの飛翔を楽しみ、池にはカワセミ出  
現で参加者がゆっくり観察できた。とどめは100羽  
を超えるミヤマガラスの群れ。終わってみれば、  
番外を入れると参加者と同数の観察種であった。

(青木正俊)

12月19日(日) さいたま市 三室地区

参加:70名 天気:晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオ  
サギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ  
オオタカ チョウゲンボウ バン イカルチドリ  
ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ  
ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョ  
ウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ ア  
オジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オ  
ナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種)  
(番外:ドバト) 天気良好。カワセミがゆっくり  
観察出来て、やはり三室の鳥を見ないと年越しが  
出来ないと参加した人々を満足させた。見沼た  
んぼの菜園で休憩、新鮮な野菜を購入する。ささ  
やかな交流が出来た楽しい探鳥会になった。

(楠見邦博)

12月23日(木、休) 年末講演会

参加:58名 場所:浦和コミュニティセンター

年末恒例の講演会を開催した。第1部の『ビデオで見るこの1年』では、海老原美夫氏、手塚正義氏、町田好一郎氏の力作を観賞した。第2部では、(財)日本野鳥の会レンジャーの江崎逸郎氏から、『日本野鳥の会の保護プロジェクト~カムリウミスズメとアカコッコを中心に~』と題して、カムリウミスズメの調査や氏の勤務する三宅島での保護活動やアカコッコの一斉個体数調査についてご講演いただいた。講演会終了後には場所を

移し、有志で氏を囲み、年末のひと時を鳥談義で  
過ごした。  
(橋口長和)

12月26日(日) 幸手市 宇和田公園

参加:42名 天気:晴

カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ  
ミサゴ オオタカ ハイタカ ノスリ ハヤブサ  
チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ キジ  
バト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ  
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイ  
ス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダ  
カ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ ス  
ズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラ  
ス (34種) (番外:ドバト) 風もなく穏やかな天気  
の中スタートした。早速、出迎えてくれたイソシ  
ギ、ジョウビタキを橋の上から見られた。水路の  
土手の上ではカワセミ、ベニマシコが予定どおり  
出て、その煌びやかな衣装を見せてくれた。中川  
の川沿いに出るとタカ類がよく姿を見せてくれた。  
特に、翼を畳んで飛び込むミサゴの採食は圧巻の  
迫力で、一部始終をじっくり堪能することができ  
た。好天に恵まれて暮れの一時を楽しく過ごすこ  
とができた。  
(中里裕一)

1月4日(火) さいたま市 さぎ山記念公園

参加:50名 天気:晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カル  
ガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハ  
ジロ オオタカ ハイタカ チョウゲンボウ バ  
ン オオバン タゲリ キジバト カワセミ コ  
ゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ  
レイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ  
ツグミ ウグイス オジロビタキ シジュウカラ  
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワ  
ラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラ  
ス ハシブトガラス (39種) (番外:ドバト) 新年最初  
の藤掛代表の挨拶。出発早々予想通りオジロビ  
タキが出現。尾羽をぴっぴっと上げる姿を全員が観  
察できた。例年よりジョウビタキが少なく、オ  
オタカが多い。ハイタカもこの探鳥会初登場。鳥  
合わせの後は白梅の咲く陽だまりで恒例の野外懇  
親会。アカショウビンというより、日に焼けてい  
るのでアカグロショウビンかな、何羽かさえずっ  
ていたけど、これは観察種リストに入れない。

(海老原美夫)

**お知らせ**

3月11日(金)に大変な災害が発生しました。会員の皆様、ご家族ご親族の皆様、友人知己の皆様の被害はいかがでしたか。心から案じております。

探鳥会の開催について、3月15日(火)現在の状況についてお知らせします。

3月12日(土)の三室地区臨時、高麗川、13日(日)の大麻生、加須はなさき公園、見沼自然公園、各探鳥会はすべて中止しました。

その後につきましては、「少なくとも3月いっぱいでは中止」あるいは「交通事情が正常に戻るまでは中止」など、様々な意見が役員の間で交わされています。状況を見ながら近日に判断することを迫られています、ある程度の期間、探鳥会を中止することも考えられます。

その場合は、当会ホームページでお知らせしますので、ご確認をお願いします。



**●三室定例探鳥会 300 回記念缶バッジ**



2月20日(日)に開催した三室地区定例探鳥会が1984年の第1回から数え300回目をむかえました。

詳しくは別にご報告しますが、当日参加した118名にはもれなく記念缶バッジをお渡ししました。

**●県鳥獣保護員を推薦**

平成23年度鳥獣保護員2名の推薦依頼を受けて、小荷田行男・橋口長和両幹事を推薦しました。

小荷田幹事は留任。平成2年4月から平成23年3月まで21年間同職をつとめた福井恒人幹事は今回退任することになり、橋口幹事に交代しました。

**●「日本野鳥の会千葉県」からの連絡**

1月30日から、「日本野鳥の会千葉県支部」は「日本野鳥の会千葉県」に、「支部長」は「会長」に名称変更したとの連絡が届きました。

**●普及活動**

1月28日(金)午前9時から11時30分まで、さいたま市大宮公園などで開催されたさいたま市北公民館主催「バードウォッチング講座」には16名が参加。松村禎夫・赤坂忠一両リーダーが指導しました。

2月26日(土)午前9時から午後12時20分まで坂戸市浅羽ビオトープなどで開催された坂戸市環境学館いずみ主催のバードウォッチングウォーキング講座には14名が参加。増尾隆・坂口稔両リーダーが指導しました。

**●会員数は**

3月1日現在2,017人。

**活動と予定**

2月12日(土) 3月号校正(海老原美夫・大坂幸男・長嶋宏之・志村佐治・藤掛保司・山田義郎)。

2月20日(日) 役員会(司会:浅見徹、各部の報告・県鳥獣保護員・5月～7月の行事予定・その他)。

2月21日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け3月号を発送(倉林宗太郎)。

**●4月の予定**

4月2日(土) 編集部・普及部・研究部会。  
4月9日(土) 5月号校正(午後4時から)。  
4月16日(土) 袋づめの会(午後3時から)。  
4月17日(日) 役員会(午後4時から)。

しらこぼと 2011年4月号(第324号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル  
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社